

1. 園外保育（散歩等）について

“何かいつもと変わった様子があった場合には、必ず登園時にお知らせください”

当園では、自然の中で子どもたちが季節を感じたり、地域の方々の働く姿を見たり、園内にはない環境に直接関わることができる園外保育も子どもたちにとって大切な活動のひとつとして考えています。

しかし一方で、大切な子どもたちを集団で、限られた職員で連れて出かける園外保育には、さまざまな危険も考えられるため、通常保育以上に留意し、準備が必要な活動でもあります。「子どもの体調急変」「事故（遊具からの転落・交通事故等）」「大規模地震」等、園内とはまた違う状況での緊急事態も想定し、次の通りに実施しています。安全に実施できるように保護者の皆様へもご協力をお願いします。

(1) 保育園の敷地外において行う全ての保育活動については、**必ず前2週間以内に第1回目の下見をし、歩くコースおよび目的地についての安全確認をします。**また、**下見時に何か心配があった場合（地面に穴があいている等）には、第2回目として直近に再度下見に出向き安全確認・対策検討**を行います。**前日が雨天・強風等だった場合にも、再度下見を行い安全確認ができれば実施すること**にしています。

(2) 子どもの人数に関わらず、1グループにつき、**緊急時に対応すること（緊急連絡者・安全確保・応急手当者・AED手配）も想定した複数の職員が同行できない場合は、園外には出かせません。**

(3) 下見をもとに事前に引率職員全員で打合せを行います。

➡ その際、当日体調が心配な子、いつもと様子が違い配慮が必要な子等についても共有します。そのことも含め、**引率職員でどんな対応ができるか確認し、安全確保ができないと判断した場合は活動を変更・中止することもあります。**（当該児は園に残り他クラス等で保育することもあります。ご承知おきください。）そのため、**何かいつもと変わった様子がある場合は、必ず登園時にお知らせください。園外保育・散歩の予定は事前に各クラス前の掲示板等で保護者へもお伝えします。**

2. 登降園時について

“子どものいのちを守るのは大人の責任です”

保育園の役割のひとつとして、保護者同士が同じ子育て中の仲間として繋がりを持てるきっかけになればと願っています。そんな思いから、降園時に園庭で保護者の皆さんが交流されている姿は、とても嬉しく大切に考えたい部分です。

しかし、この時間帯の子どもたちの動きには要注意です。大好きなお家の方がお迎えにみえて、嬉しくなってそのまま車道へ走っていく…なんてこともあり得ます。子どもたち自身では、まだまだ身の安全を十分には守ることはできません。せっかくの楽しい時間だったはずが取り返しのつかないことにならないように、**降園時の引き渡し後、或いは、登園時の駐車場からの移動は、保護者の責任でお子さんの安全確保をお願いします。**普段から、「**車から降りたら必ずお家の人と手を繋ぐ**」「**一緒に移動する**」習慣をつけていきましょう。

<こんな姿も危険です>

カバンを背負ったままで遊具で遊ぶ

アメ等食べ物を口に入れながら登園する

保護者から離れて、ひとりまたは友達と園外を走っていく

子どもを車内に残して離れる

エンジンのかけたまま車から離れる 他

窒息の恐れがあります

③. 園での汚れ物対応について

“原則、お子さんの持ち物の管理は保護者をお願いします”

保育中に起こる以下の状況については、次のように対応します。子どもたちが存分に遊び、自分で身のまわりのことをやってみる中での育ちを大切にしたい思いから、衣類が汚れたり、様子が園でも洗濯させていただくことがあります。また、保育中ということから簡単な対応となること等ご理解いただき、園に着て来る衣類の判断をお願いします。何かありましたらお知らせください。

| 状況 | 対応 |
|-----------------|---|
| 尿 | <ul style="list-style-type: none"> ・そのままビニール袋に入れて持ち帰る（衣類・シーツ・おねしょシーツ） ・布団…園で干すまたは保護者の判断で持ち帰り対応していただく ※オムツ（原則園処分） |
| 普通便 ※手袋着用 | <ul style="list-style-type: none"> ・パンツ…なるべく便を便器に落とし、<u>汚物用水道にて水洗い</u>し、ビニール袋に入れて持ち帰る ※オムツ（原則園処分） |
| 下痢・嘔吐 ※手袋着用 | <ul style="list-style-type: none"> ・汚染した衣類等は、できるだけ汚物を取り除き、<u>そのままビニール袋に入れて</u>持ち帰るまたは、<u>保護者の意向を確認し、園で処分</u>する ※持ち帰る場合は『嘔吐や下痢で汚染された衣類の消毒方法』用紙を保護者へお渡しします 可能であれば感染拡大予防のため、感染性胃腸炎の流行期は、ビニール袋を開けずに処分していただくと安心ですが、洗濯する場合は参考にしてご家庭で消毒を行ってください |
| 鼻血等の出血 ※手袋着用 | <ul style="list-style-type: none"> ・<u>汚染箇所を【水洗い】</u>し、ビニール袋に入れて持ち帰る ※お湯では血液が固まり落ちにくい |
| 食べこぼし | <ul style="list-style-type: none"> ・未満児用エプロン…汚れがひどい場合は<u>【水洗い】</u>し、ビニール袋で持ち帰る 米粒程度であれば、取ってそのままビニール袋で持ち帰る ・以上児用ナフキン…牛乳や汁物等をこぼした場合、汚れ具合により水洗いをし、ビニール袋に入れて持ち帰る ・その他の衣類…そのままビニール袋に入れて持ち帰る |
| 泥 | <ul style="list-style-type: none"> ・冬季の上着…拭き落とししたり日向等で干し汚れを払う ・手袋等防寒具…上着同様 汚れにより水洗いし、降園時に間に合えば干して乾かし、身に付けて帰れるようにする ・春～夏季…以上児は『泥んこ遊び用の服』を家庭でご用意いただき、そのまま持ち帰る（泥んこ遊び時のカラー帽子は園で洗濯）<u>※洗剤が必要な場合は、極少量で</u> ・その他の衣類…汚れがひどい場合は水洗いし、ビニール袋に入れて持ち帰る <u>※洗剤が必要な場合は、極少量で</u> ・靴…汚れがひどい場合は、日向等で干し汚れを払う |
| 汗 | <ul style="list-style-type: none"> ・衣類…そのままビニール袋に入れて持ち帰る <u>カラー帽子</u>（きく～以上児）…毎日持ち帰り家庭で管理していただく ・長保で使用する子どものものは、園で洗濯する等、必要に応じて対応する |

乾燥機は縮むため注意です

④. 個人情報の扱いについて

“個人情報を許可なく使用することは禁止です”

保育園は、子どもたちが安心して生活できる場所でなければなりません。子どもたちに望ましくない影響が起り得ることはお控えください。子どもたちや家族、園職員の写真等を許可なく撮影する、撮影した写真や個人情報等を許可なく使用することは禁止です。保育園では、園での子どもたちの様子を保護者や地域の皆様へお伝えするために、おたよりに添付し配布や掲示をしたり、TVや新聞社等の取材が入ったりすることがあります。何かご事情がある場合には、配慮いたしますのであらかじめお知らせください。

5. けが、かみつき、ひっかき、けんかは起こります

“お子さんの成長発達、情緒の様子等、共有をして一緒に見守っていきましょう”

保育園は集団生活の場です。それぞれ違う家庭環境の中で生活してきた子どもたちが一緒に過ごすようになると、ひとりひとりの自我の表現や自己主張の手段の形としてさまざまなことが起こります。例えば、興味が同じことによる物や場所の取り合い、他者への興味、以上児になってくるとお互いの思いのぶつかり合い等が要因のトラブルです。「それ、ぼくの」「やってみたいな、それ」「わたし、やだ」…こういった気持ちがあっても、まだ自分の気持ちをうまく表現することができず、中には、通りすがりにかみついたり、ひっかいたり…という姿が見られることもあります。

これは成長過程のひとつで、そういった姿があったとしても特別なことではありません。

「子どもたちが育っていく上で必要な子ども同士の関わり合い・育ち合い」と考えられています。

保育園としては、もちろんけがや事故が起こることが予想される危険な物的環境は取り除いたり、置き方を変えたり、また、かみつきやひっかき等については、常時子ども達の様子に合わせて職員の立ち位置を確認し合ったり、けがに繋がる姿についてはできる限り止め、子ども達へ繰り返し適切な関わり方も伝えるように努めていきます。

しかし、それでもどうしても防ぎきれないこともあります。

園でけがやトラブルがあった場合は、できるだけ速やかにあった事実を（2名であれば両者へ）報告することにしています。特にトラブルについては、どちらが良い・悪いの判断をするのではなく、ありのままをお伝えします。これは園児の健康と安全を守るためには保護者との連携が大切であると考えているからです。

発達段階的に（歯の生え始めでむず痒い・感情を言葉で表せられない・どう接すればいいのかわからない等）、また何か気持ちの表現として（甘えたい・心身が不安定になっている・けんかをした時の攻撃手段として等）かみつき等が増える時期もあります。一時的なものの場合もあれば、毎日のように続く場合もあります。こういった場合には、園だけではなく保護者とお子さんの様子を共有し、どんな要因がありそうか、またどんな対応をしていくとよさそうか、子どもたち自身が適切な『自己表現の方法』や『友達との関わり方』を学んでいけるように、一緒に考え見守っていきたいと思っています。

今の段階での子ども達には、悪気がないことがほとんどです。大人が「人にはしてはいけない行為」「適切な人との関わり方」「その場面で必要な言葉」等を繰り返し教えていくことが必要です。ご家庭でも、お子さんとの関わりの中で意識していきましょう。そういった大人との体験を積み上げていく中で、徐々に言葉の獲得が進んだり、心身が安定していくことで姿も変化していくと思います。0歳～就学前期の段階でのさまざまな体験が、その後の子ども達の幸せな人生に繋がっていくことを願っています。

また、固定遊具等の使用についても、個々の姿に合わせ、やってみたい気持ちや子ども自身が自分で安全な体の使い方を学んでいけることを大切にしながら必要な援助に努めます。けれども、時として声かけや働きかけが間に合わないこともあります。その場合も、速やかに処置をし保護者へお伝えします。

遊びについてもご家庭での様子を随時お知らせください。「最近、まだうまくできないけど繰り返しこんな挑戦をしている姿がある(例；鉄棒の前回りをしようとしている等)」等、情報をいただけましたらより気にかけて見守ることができ助かります。遊びから子ども達はいろんな力を身に付けていきます。親子で遊ぶ中で体や遊具の使い方等も教えていきましょう。保護者と園で連携し、お子さんがまずは安心安全で生活や遊びを楽しむことができ、その中で適切な自己表現力等が育っていくことを大切に、その先にお友達と関わり合いながら育っていく段階に繋がっていくよう一緒に育ちを支えていきたいと思います。